



45



森のかおりと水源の町

宮崎学区

MIYAZAKI



未来の宮崎へのメッセージ



青い目の人形と宮崎小の子どもたち

● 青い目の人形を受け継いできた誇り

少しいたんでいますが、これこそが戦争を乗り越えた証なのです。
(宮崎小：山田友和くん・三宅莉瑚さん)



● 大切なものを未来に引き継ぎます

昭和2年、アメリカとの友情の証に日本へ。ほとんどの仲間は戦時中に燃やされたり、竹やり訓練の標的に。でも、宮崎小の私は守られました。(青い目の人形：コルマモデル)

● 野鳥が育つ環境。それが宮崎の自然
名前や鳴き方を覚える野鳥検定で、自然の大切さを学んできました。(宮崎小：橋本あこさん)

● 自然を楽しみながら遊べるくらがり渓谷
秋になるとみじがきれい。バーベキューやマスつかみもできるよ。
(宮崎小：山口順行くん)

● 岡崎で一番高いところは本宮山

山頂で見る日の出がとてもきれい。富士山も見えるよ。
(宮崎小：白井敬二くん)

● 伝統文化を後世に残そう

嫁獅子神楽で一番長く受け継がれた「千万町神楽」、大代町・雨山町の「事始め」などの伝統文化を守っていきます。
(宮崎小：荻野笑歌さん・林仁衣菜さん)

● 村が3軒になるまで伝統の神楽を続ける

合言葉のもと、若者が頑張って伝統を守っていることを誇りに思う。
(雨山町：清水力さん)

● 宮崎だけの特別なお茶で地域をつなごう

宮崎のお茶は無農薬すごい。お茶を通して地域がつながればいいな。
(宮崎小：竹下巴さん・岩月乙女さん)

● 原点は、ふるさとにある

新聞配達をして中学2年生の時に買ったカメラ。これがぼくの原点。
(宮崎学区出身：写真家/竹内敏信さん)



編集後記

岡崎市には、都市部と山間地・水源地がコンパクトに同一市域内に隣接しているという全国的にも稀な特色があり、宮崎学区には、『伝統ある宮崎村の森林整備が岡崎の水源をつくっている』との自負があります。

宮崎学区は、未来に向けて豊かで暮らしやすい町を目指すとともに、森のかおりと水源の町として、岡崎市民にやすらぎの自然と安心を提供していきます。

〔作成委員会〕 佐野邦明/岩倉伸祥/藤井正志/平木教男/
加藤喜弘/荻野欽司/平松伸一/梅村隆敏/権田二三男/
杉浦傑/荻野保吉/菅沼弘/林修/林正樹

〔参考資料〕
宮崎村誌/額田町史/ふるさと読本ぬかた
〔協力〕
宮崎小学校、岡崎森林組合、茅葺きの里フォトコンテスト

〔表紙写真〕 宮崎小茶つみ会、清流での水遊びとアユつかみ、万足平の猪垣など宮崎学区の印象的な風景

宮崎学区のたからもの

ふるさとの文化や自然を大切にする心

猪垣が伝える先人の心

田畠を猪や鹿から守る
猪垣は関東以南の各地にあります
が、宮崎地域のものは総延長が約50kmもあり、
全国的にみても特に立派です。
総工費は現在の価値に換算して約20億円。すべて

が農民の共同作業で造られたというから驚きです。
協力して困難に立ち向かつた先人の遺産です。

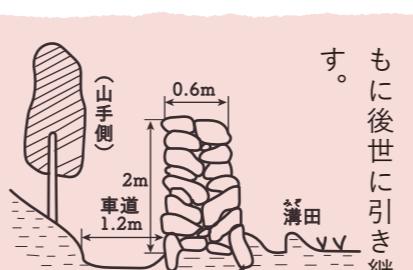


猪垣の修復作業
築造当時も子どもから年寄りまで村中総出で作業をしたという記録があります。

猪垣を守り引き継ぐ

宮崎には「領家片麻岩」という平らな石がたくさんあることも猪垣が発達した理由です。保存状態の良い延長612mの「万足平の猪垣」は、県の有形民俗文化財に指定されています。

「万足平を考える会」と宮崎小学校が共同で保存活動を行い、地域を愛する心とともに後世に引き継いでいます。



猪垣の構造
猪垣はこんな工夫されたつくりをしています



千万町町の八剣神社大祭に豊作と悪魔祓いの願いを込めて奉納される神楽です。大正時代に途絶えかけましたが、地元有志が安城の神楽を学んで再興。現在は千万町神楽保存会がその伝統を受け継いでいる県の無形民俗文化財です。

千万町神楽を引き継ぐ

宮崎小学校では教育の柱の一つに「愛鳥活動」をすえており、何度も文部大臣賞や環境大臣賞を受賞しています。子どもたちは親子探鳥会などで野鳥と親しみ、そこから自然との共生を学びます。40年以上続いているこの教育活動は、学区民の自然を愛する心の基盤となっています。

愛鳥活動で自然共生の心を育む



昭和の初めごろまで、町から生活物資を運んできた馬車と奥地の産物を背負って下りてきた牛馬とが出会うこの地は、物資の中継地として賑わいました。最盛期の明治30年代には、日に60頭もの牛馬が下りてきたとのことです。中心部の亀穴には、20軒の問屋をはじめ、医者、歯医者、映画館、宿屋などもありました。

全国に名を馳せた林业の町

明治半ばまで全国各地で山焼きが行われ、山が荒廃していました。宮崎村初代村長の山本源吉は、村の発展は山焼きの廃止と植林にあると判断し、全国に先駆けて積極的に植林事業を推進。「村は法人であり、村有林は親である」との合言葉のもと、宮崎村は、全国でも有数の美林を誇る豊かな村になりました。

宮崎村初代村長 山本源吉

植林された当時の宮崎村有林(明治43年)。明治136年度までの詳細な造林計画があった。

青い目の人形の歓迎式



愛知の小学校に贈られた349体のうち9体のみが残り、そのうちの1体が宮崎小のコレクションです

青い目の人形が贈られる
アメリカから日本の子どもたちに
乗合自動車(バス)が
岡崎ー亀穴間を通り始める
宮崎茶の最盛期
宮崎村に千万町と木下が加わり、今の学区ができる
宮崎産業組合(宮崎農協の前身)ができる
アメリカから日本の子どもたちに
青い目の人形が贈られる
宮崎尋常高等小学校が
宮崎国民学校となる
宮崎国民学校が宮崎小学校となる
宮崎中学校ができる: 2
宮崎中学校ができる
昭和の大合併で4村が合併し、
額田町が誕生する
本宮山とくらがり渓谷が
県立自然公園となる
宮崎保育園ができる
額田地域の4中学校が統合され、額田中学校ができる
宮崎診療所と額田南部工業団地ができる
雨山ダムが完成する
平成の大合併により新岡崎市が誕生する

1 計画的に植林、管理された森林

2 宮崎中学校(昭和47年当時)

3 統合された現在の宮崎小学校(平成28年)

二〇一〇年・平成22
二〇〇六年・平成18
一九九七年・平成9
一九九一年・平成3
一九七一年・昭和47
一九六九年・昭和44
一九六二年・昭和37
一九四七年・昭和22
一九四一年・昭和16
一九五六年・昭和31
一九六九年・昭和22
一九七一年・昭和16
一九九一年・平成3
二〇一〇年・平成22

千万町小学校、大雨河小学校が閉校し、宮崎小学校に統合される… 3
平成の大合併により新岡崎市が誕生する
雨山ダムが完成する

宮崎小学校藏

宮崎学区 村じまんマップ

森のかおりと水源の町

太古からの自然と整備された森林が共存する宮崎学区は、乙川と男川の水源の町。戦国時代には奥平氏と武田氏が互いにせめぎあつた歴史の舞台でした。



A 千万町の野仏
主に江戸時代に作られた石仏が集められている



B 巴山(ともえやま)
三河・宝飯・加茂と3国の交わる、男川、豊川、矢作川の分水嶺。写真は山頂付近からの眺め



C 本宮山
標高789m。西に岡崎市街地、眼下に東三河、はるかに南アルプスや富士山が一望できる岡崎の最高峰



D 雨山ダム
市内東部に給水する、高さ21.5m、幅160m、集水面積2.6km²の生活ダム



貴重な自然と共に生きる

男川の源で本宮山の登山口でもあるくらがり渓谷は、宮崎学区の自然を象徴する場所。これから山頂までは全て国有林で、針葉樹、広葉樹などの暖地性の天然林が貴重な植物群をなし、太古から変わらぬ豊かな自然が残されています。一帯は県立自然公園に指定されており、渓谷沿いの清流は西三河屈指の自然景観です。また、ハイキング、キャンプ、マス釣りなどを楽しむことができ、誰でも気軽に自然と触れ合えるのも魅力です。ほかに国の天然記念物であるネコギギの生息地をはじめ、春



ミツマタ群生地…E



くらがり渓谷…F

滝山合戦と田原坂合戦 (1573年)
作手方面から滝山城(亀穴城)へ五千余騎の武田軍が押し寄せました。奥平軍は激戦の末これを撃退し、田原坂に迫りました。武田軍は、ここでもたくさんの犠牲者を出して撤退しました。滝山合戦の古戦場は残された足跡から「万足平」と呼ばれています。村人は「三ツ石」という塚を作り敵味方なく犠牲者を葬りました。



滝山合戦古戦場と滝山城を万足平の猪垣から望む